

青森リンゴの最大の輸出先となっている台湾。(現・玉山)である。標高3695.2mで、富士山輸入量は14万ト前後で、を上回る。

台湾国内のリンゴ生産量は約1500トしかないため、リンゴの自給率は1%足らずで、ほとんど輸入に頼っている。台湾財政部の貿易統計によ

## 5万トン時代へ

### 青森リンゴ輸出

14

台湾は亜熱帯性気候から熱帯モンスーン気候に属するが、標高の高さとこのでリンゴを栽培している。意外と思われるが台湾には3千トを超える高山が164座もあって、日本の21座をはるかに上回る。真珠湾攻撃の暗号で有名なニイタカヤマ(新高山)は当時日本

台湾には、中国産は輸

# 米国産の2〜3倍の値

入されていない。台湾で生産されている農産物は中国から入れないという「海峡兩岸経済協力枠組 取り決め」(ECFA)からである。台湾のリンゴ輸入国を

「海峽兩岸経済協力枠組 止りリストに加わっている オセアニア、アフリカ、ヨ



今年1月、台湾・新北市三重市場で販売されていた本県産リンゴと米国産リンゴ(いずれも農産国際経済課提供)

「ロッパとまき」に世界中からである。まるで世界見本市のようだ。この中で本県産は断トツの評価を受けているのである。例えばサン・ふじの場合、アメリカ産の2〜3倍、韓国産の4倍などの価格で販売されており、贈答用の絵文字入り「世界一」は、1個1200円を超えるものもある。

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)